

---

# 狩人

古尾 光

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狩人

### 【Nコード】

N1180I

### 【作者名】

古尾 光

### 【あらすじ】

ある狩人が森で言葉を話すうさぎに出会う

狩人が森で狩りをしていると、もしもひと小さな声で話しかけられた。

人などいない森だ、警戒しながら周りを見てみると白いウサギが足元にいた。

「カリウドさん、カリウドさん。美味しい木の実があるところを知ってるよ」

ウサギがしゃべったことに驚きはしたが、木の実が取れるのはうれしい。

「こっちこっち」

さすがにウサギの足は早く追い付くのが精一杯だ。

追いかけてこちらまで疲れ始めた頃、周りの藪がガサガサと鳴る。

ガルル、と低い唸り声。虎だ。

「あぶない、あぶない。こっちこっち」

疲れていたいたこともあり素直にウサギに従って着いていく。

ザザッ、という葉の擦れる音と同時に足に鈍い痛みが走る。落とし穴だ、小さな穴だが俺をこけさせるには十分だった。しかし、足の痛みはそれだけではなかった。蛇だ、しかも猛毒を持つ毒蛇が足に噛みついていた。

「できた、できた」

逃げたはずのウサギが戻ってくる。

「お前がやったのか」

「私達はお前たちの真似をしたただけだ」

さっき現れた虎が説明をする。虎も共犯だったのか。

「餌で誘い、誘導し、穴に落とす。全てお前がやったことだ」

毒のせい意識が薄れ出す。動物達が鳴きながら身体をくねらしたり、飛んだりしている。獲物である動物に狩られるとは…、無念だ…

「ウサギよ、この者は最後無念そうにしていたがなぜだ？」  
「なんででしょう、彼らはこうすれば、この者は神様のところ行くのだ、幸せだろう、と言っただけだ」  
「よくわからないな。ところで神様とはなんだ？」  
「腹のことじゃないんですかね、食べてましたし」  
「食べられて、幸せなのか。人間とはわからんな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1180i/>

---

狩人

2010年10月16日09時24分発行